

(賛成討論)

未来とよなかを代表して平成27年度当初予算関係議案58件、すなわち市議案第5号から市議案第62号について、賛成の立場ではありますが、会派としての共通認識として強い問題意識を持っている件について、一点だけ、意見を述べさせていただきます。代表質問でも述べましたが、未来とよなかは、この4年間、常に持続可能な行財政運営を意識して、様々な質疑、提案をしてまいりました。その観点から言いますと、今回の予算関係議案については、不十分に感じるところもありますが、一定、改善やその意識を感じられる部分もあると評価しております。市長も仰るように、行財政改革は不断の努力が必要との認識を市全体として持ち、実践し続けることで、更なる高質な行財政運営の確立を期待しておきます。

さて、我が会派として強い問題意識を持っている件とは、環境施策における持続可能性の考え方についてです。豊中市は、循環型社会の形成、持続可能な社会づくりと称して、様々な環境施策を実施されますが、大きな視点が欠落している様に思います。それは、財政的持続可能性及び費用対効果の視点です。今回の予算案で言いますと、生ごみ・剪定枝堆肥化事業についてが顕著な例です。生ごみ・剪定枝堆肥化事業は、初期投資を含め、これまでに約4億円もの税金を投入してきました。毎年の事業経費も約3000万円と高額です。一方で、当該施設への学校給食の残飯、残菜の搬入量は若干減ってきてはいるものの、それほどの削減は見られず、啓発効果も乏しいのが実態です。ちなみに、生ごみ・剪定枝堆肥化事業を中止し、学校給食の残菜や残飯及び剪定枝を焼却した場合の費用は年間約800万円とのことで、明らかに税金の支出額に差が生じます。昨年、これらの指摘をさせて頂いた結果、今回、既存の老朽化した堆肥化機械の更新を行い、維持管理費用を現行の4割から5割程度縮減を図られたことは一定評価しますが、まだまだ割高感は否めません。この件に限らず、環境施策だからどれだけコストがかかってもよい、費用対効果の視点を後回しにしても良いのではなく、持続可能な社会づくりのためには、財政的な持続可能性にも十分に配慮して、施策展開をして頂きたいとあらためて、意見申し上げて、未来とよなかを代表しての討論とさせていただきます。